

## V 緊急時への備え

注意して取り組んでいても事故は起こる可能性があります。日頃から、緊急時を想定して備えておくことが大切です。

- 1 緊急時に備えましょう。
- 2 「食物アレルギー緊急時対応マニュアル」を活用します。

「食物アレルギー緊急時対応マニュアル」の解説

- 3 原因食物に触れた時の対応

V

緊急時への備え

## What 何を？

# 1 緊急時に備えましょう。

## Why なぜ？

- ・ 誤食事故や初発の症状出現は、いつ起こるかわかりません。いざという時に迅速、かつ適切に対応できるように、日頃から緊急時に備える必要があります。

## How どうする？

- 日頃から施設職員の当事者意識と、危機管理能力を高めることが大切です。

### <準備すること>

- ・ 「食物アレルギー緊急時対応マニュアル」  
（「東京都アレルギー情報navi.」からダウンロードできます。）\*URL P74参照
- ・ 食物アレルギー対応に関する研修に参加し、当事者としての意識と対応能力を高めます。
- ・ 緊急時における職員の役割分担を決めます。
- ・ 緊急時を想定した訓練を実施します。エピペン<sup>®</sup>を預かる場合には、職員全員が使えるように訓練します。
- ・ 緊急時に使う薬品・物品（食物アレルギー緊急時対応マニュアル、個別取組プラン、処方薬、緊急時連絡先など）を組織的に把握・管理し、必要な時に、すぐに使用できるように準備しておきます。
- ・ 緊急時に受診できる医療機関を確保しておきます（できるだけ近隣の地域で）。

### 事故発生時の役割分担（例）

職員	主な役割
施設管理者 （園長など）	・ 対応体制・対応の流れなど全体の把握 ・ 職員への指示
看護職員・保健衛生の 担当者	・ 患者の症状と状態観察及び記録 ・ 主治医、嘱託医などへの連絡 ・ エピペン <sup>®</sup> 注射や救急車への同乗
担任などの職員	・ 保護者への連絡 ・ 救急要請（119番通報） ・ 看護職員・保健衛生の担当者の補助 ・ 周囲の子供への対応

### 役割分担のポイント

- ・ 施設管理者は状況を的確に把握して対応を決定します。
- ・ 子供のケアをする者、救急要請（119番通報）をする者など、少なくとも2から3名以上で対応する必要があります。
- ・ 看護職員・保健衛生の担当者が不在の場合を想定して、職員全員が役割を代行できるようにします。

### ◆ エピペン<sup>®</sup>の預かり方（例）

- 1本処方されている場合： 毎日登園時に預り、保育中は施設で保管し、帰宅時に返却します。
- 2本処方されている場合： 1本は常に施設で保管し、職員が管理します。もう1本は1本処方と同様に管理します。

エピペン<sup>®</sup>の管理・運用についてはP62参照

- 日頃から地域の小児救急医療機関やアレルギー専門医がいる医療機関の情報をまとめておきます。

### 医療機関情報のまとめ方の例

〇〇区 子供の食物アレルギー対応の医療機関								〇年〇月現在		
No.	医療機関名	医師	所在地	電話番号	相談	検査		食物経口負荷試験	エピペン®処方	緊急時対応
						抗体検査	特異的IgE 皮膚テスト			
1	〇〇病院									
2	〇〇クリニック									
3	〇〇医院									

救急医療機関一覧（診療科目に小児科あり）				〇年〇月現在	
No.	医療機関名	所在地	電話番号		
1	〇〇大学医学部附属病院				
2	〇〇病院				
3	〇〇医療センター				

※ 夜間や休日は、診療科の表示があっても小児科医の診療が受けられるとは限りません。あらかじめ対応の可否を確認しておく必要があります。

#### <これから情報把握する場合>

緊急時になってから探すことは、予想以上に時間がかかり、重大な事故につながりかねません。事前の準備が必須です。

○ 東京都医療機関案内サービス（ひまわり）：地域の医療機関を検索できます。

○ 「日本アレルギー学会専門医・指導医一覧（アレルギー専門医の検索）」

\* URL P74参照

- 事故発生後、施設管理者は速やかに行政主管部署への報告を行います。

V

緊急時への備え

What  
何を？

## 2 「食物アレルギー緊急時対応マニュアル」を活用します。

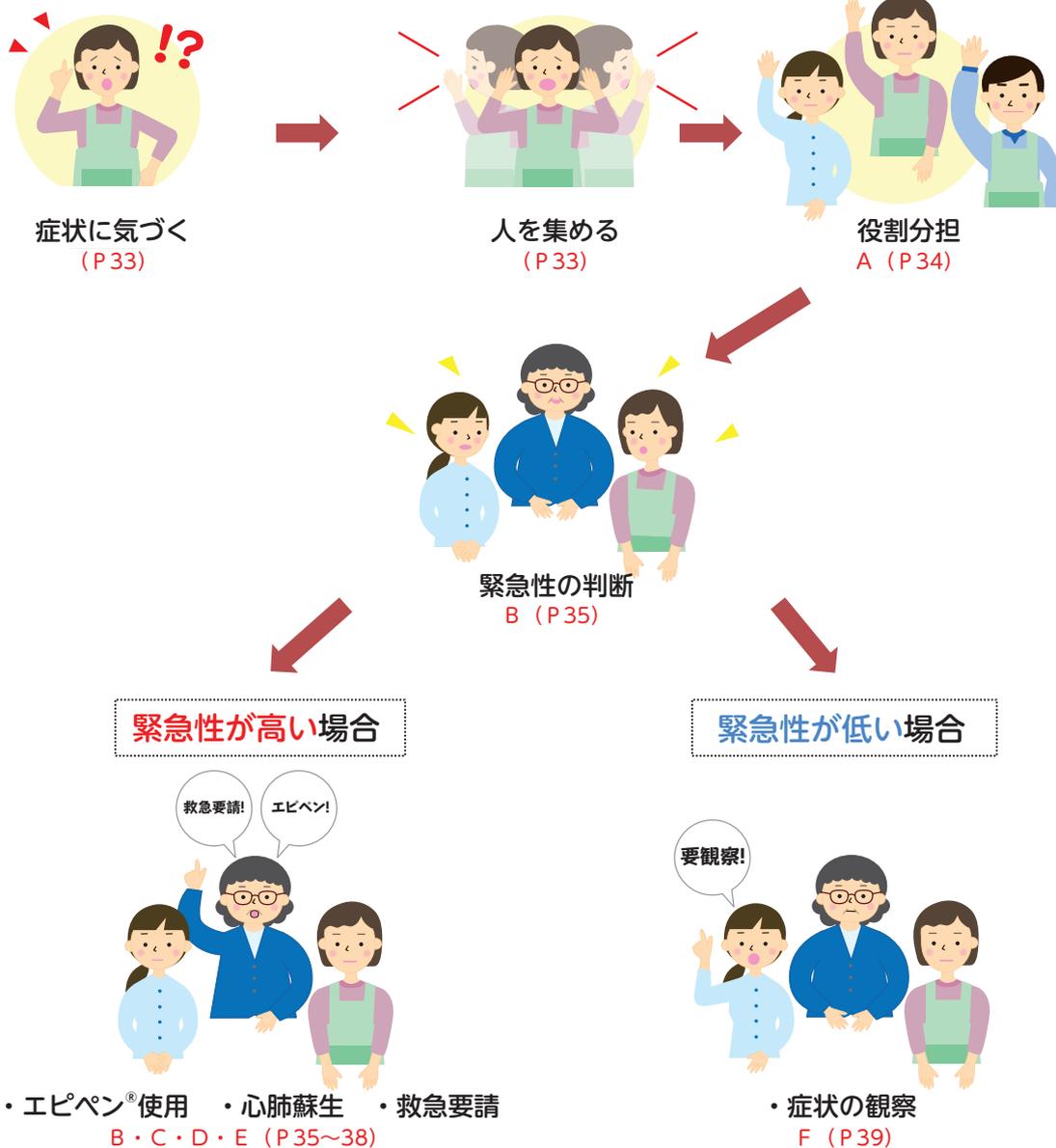
Why  
なぜ？

- ・ アナフィラキシーショックとなり生命の危機に陥る可能性もあるため、迅速、かつ適切に対応する必要があります。

How  
どうする？

- 緊急時には「食物アレルギー緊急時対応マニュアル」に従って対応します。このマニュアルは緊急時に手順に従って行動していけば、より良い対応ができるように作成されています。
- ポケットに入れる、見えやすいところに掲示するなど、常にいつでも使えるように準備しましょう。

### 緊急時対応の流れ



V

緊急時への備え

# 「食物アレルギー緊急時対応マニュアル」の解説

## 食物アレルギー緊急時対応マニュアル

### アレルギー症状への対応手順

アレルギー症状

全身症状  
呼吸器症状  
消化器症状  
皮膚症状  
アレルギー性鼻炎  
アレルギー性結膜炎  
アレルギー性鼻炎  
アレルギー性結膜炎  
アレルギー性鼻炎  
アレルギー性結膜炎

緊急性の高いアレルギー症状はあるか？  
5分以内に判断する

① すぐにエビベン®を使用する  
② 救急車を要請する(119番通報)  
③ その場で安静にする  
④ 可能な限り内服薬を投与する

⑤ エビベン®を10～15分後に症状の改善が見られない場合は、次のエビベン®を使用する(2本以上ある場合)  
⑥ 心臓蘇生とAEDの手順

東京都

(P33)

## A 施設内での役割分担

◆各々の役割分担を確認し事前にシミュレーションを行う

教員・教職員(職員・教員など)

児童・職員 A (準備)

児童・職員 B (119番)

児童・職員 C (その他)

(P34)

## B 緊急性の判断と対応

◆アレルギー症状があったら5分以内に判断する！  
◆迷ったらエビベン®を打つ！ 迷ったら119番通報をする！

B-1 緊急性の高いアレルギー症状

【全身症状】  
① 意識がもうろう  
② 顔や唇が青ざら  
③ 顔が腫れにいくはたは不規則  
④ 嘔吐が激しい

【呼吸器症状】  
① 心拍の速い呼吸が聞かれる  
② 声がかすむ  
③ 犬吠状のような咳  
④ 息がしにくい  
⑤ 呼吸が速い(呼吸が浅い)

【消化器症状】  
① 嘔吐が激しい(嘔吐が頻回)  
② 嘔吐が繰り返す  
③ 嘔吐が繰り返す

① たたちにエビベン®を使用する！  
② 救急車を要請する(119番通報)  
③ その場で安静にする(下記の体位を参照)  
④ 可能な限り内服薬を投与する

◆エビベン®を使用し10～15分後に症状の改善が見られない場合は、次のエビベン®を使用する(2本以上ある場合)  
◆反応がなく、呼吸がなければ心臓蘇生を続ける

安静を保つ体位

① 意識がもうろうの場合  
② 嘔吐、おう吐が頻回の場合  
③ 嘔吐が繰り返す場合

(P35)

## C エビベン®の使い方

◆それぞれの動作を声に出し、確認しながら行う

① ケースから取り出す  
② しっかり震らす  
③ 安全キャップを剥がす  
④ 太ももに注射する  
⑤ 確認する  
⑥ マッサージする

⑦ ケースから取り出す  
⑧ しっかり震らす  
⑨ 安全キャップを剥がす  
⑩ 太ももに注射する  
⑪ 確認する  
⑫ マッサージする

(P36)

## D 救急要請(119番通報)のポイント

◆あわてず、ゆっくり、正確な情報を伝える

① 救急であること伝える  
② 救急車にきてほしい住所を伝える  
③ いつ、それが、どうして、誰だか、どうしたのかを伝える  
④ 救急して欲しい人の氏名と年齢を伝える

(P37)

## E 心臓蘇生とAEDの手順

◆強く、速く、絶え間ない胸骨圧迫を！  
◆救急隊に引き継ぐまで、または子供に普段通りの呼吸や目的のある仕様が認められるまで心臓蘇生を続ける

① 反応の確認  
② 通報  
③ 呼吸の確認  
④ 胸骨圧迫(人工呼吸なし)  
⑤ AEDの準備  
⑥ AEDのメッセージに従う

(P38)

## F 症状チェックシート

◆症状は急激に変化することがあるため、5分ごとに、注意深く症状を観察する  
◆の症状が1つでもあてはまる場合、エビベン®を使用する

全身症状  
呼吸器症状  
消化器症状  
皮膚症状

① たたちにエビベン®を使用する  
② 救急車を要請する(119番通報)  
③ その場で安静を保つ  
④ 可能な限り内服薬を投与する

⑤ エビベン®を10～15分後に症状の改善が見られない場合は、次のエビベン®を使用する(2本以上ある場合)  
⑥ 心臓蘇生とAEDの手順

(P39)

## 緊急時に備えるために

◆本マニュアルの利用にあたっては、下記の順にご確認ください。

① 施設長・校長・学長は、食物アレルギー対応施設として、本マニュアルの活用を推進してください。  
② 教員・職員は、本マニュアルの活用を推進してください。  
③ 施設長・校長・学長は、本マニュアルの活用を推進してください。  
④ 施設長・校長・学長は、本マニュアルの活用を推進してください。

(P40)



## アレルギー症状への対応の手順（次頁参照）

このページでは、アレルギーが疑われた時点から、対応を実施するまでの一連の流れを解説しています。

- 食物アレルギーが疑われる状況というのは、原因食物を食べてしまい明かな症状が出ている場合だけでなく、原因食物を食べてしまったがまだ症状が出ていない場合、状況から推察して原因食物を食べてしまった可能性が高い場合が含まれます。

### 【アレルギー症状がある】

次頁の表紙の「アレルギー症状」に記載してある全身の症状、呼吸器の症状、消化器の症状、皮膚の症状、顔面・目・口・鼻の症状は、食物アレルギーの症状とは限らず現れることがあります。急に症状が現れた場合は、アレルギーによる症状を疑います。アレルギー以外の緊急な対応を必要とする基礎疾患がある場合は、その判断も必要になります。

### 【原因食物を食べた】

摂取後に誤食に気づいた場合、詳しい状況がわからず摂取してしまったかもしれない場合も含まれます。

### 【原因食物に触れた】

食物アレルギーは、経口摂取した場合だけでなく皮膚についたり、吸い込んだり、目に入った場合でも症状が出る場合があります。

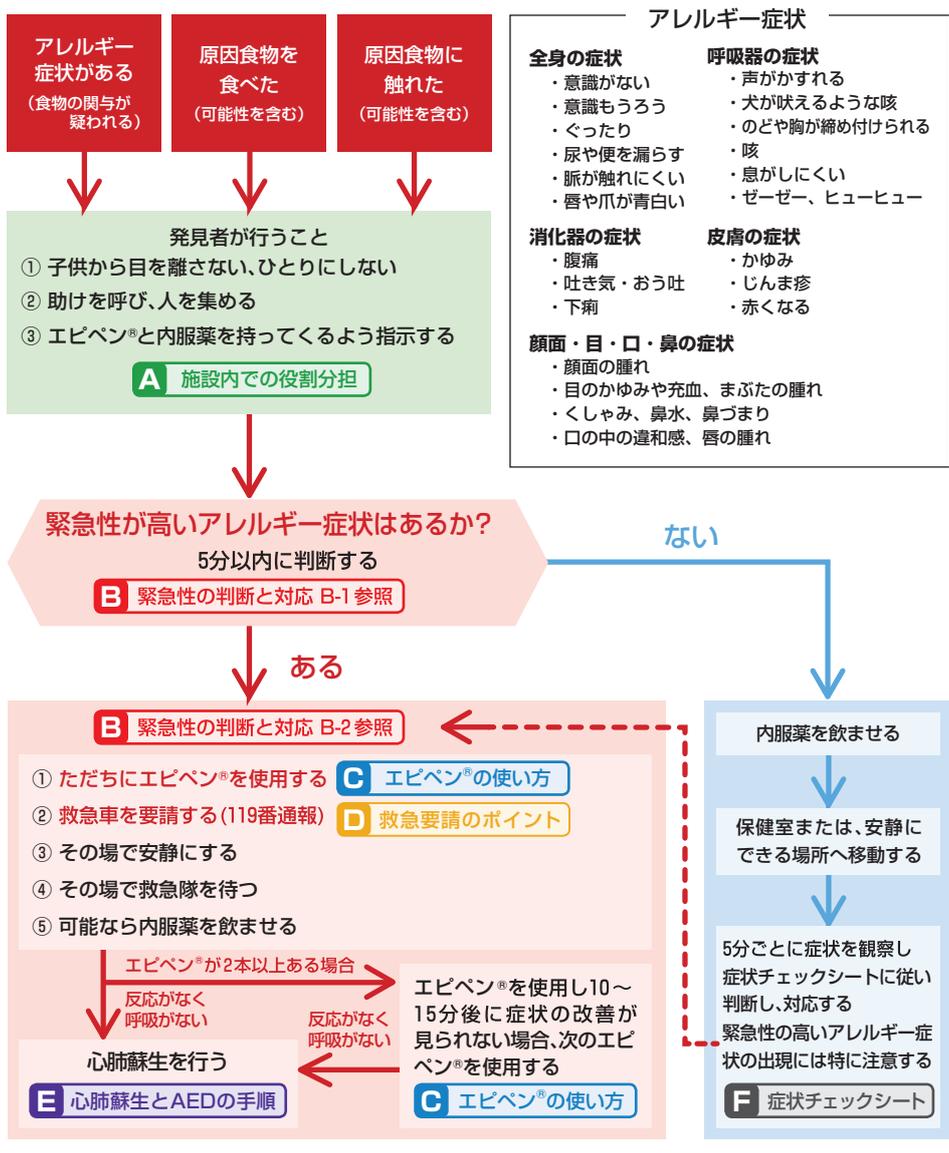
- 発見者が行うことは、子どもから目を離さないで人を集めることです。
- 緊急時の対応は、ページAにあるように同時にいくつもの作業が必要です。あらかじめ訓練をしてどのような作業があるのかを職員全員が把握していることで、迅速にもれなく実施することができます。
- この作業と同時に、緊急性が高いアレルギー症状があるかの判断を5分以内にします。  
**緊急性の高いアレルギー症状は**、ページBに記載されている13個の症状になります。このうち1つでもあれば、緊急性が高いということで、エピペン<sup>®</sup>があればエピペン<sup>®</sup>を使用し、救急要請することになります。具体的にはページBとCで対応することになります。  
**緊急性の高いアレルギー症状が無ければ**、ページFの症状チェックシートを使用して5分ごとに症状が落ち着くまで観察を繰り返します。

V

緊急時への備え

# 食物アレルギー緊急時対応マニュアル

## アレルギー症状への対応の手順



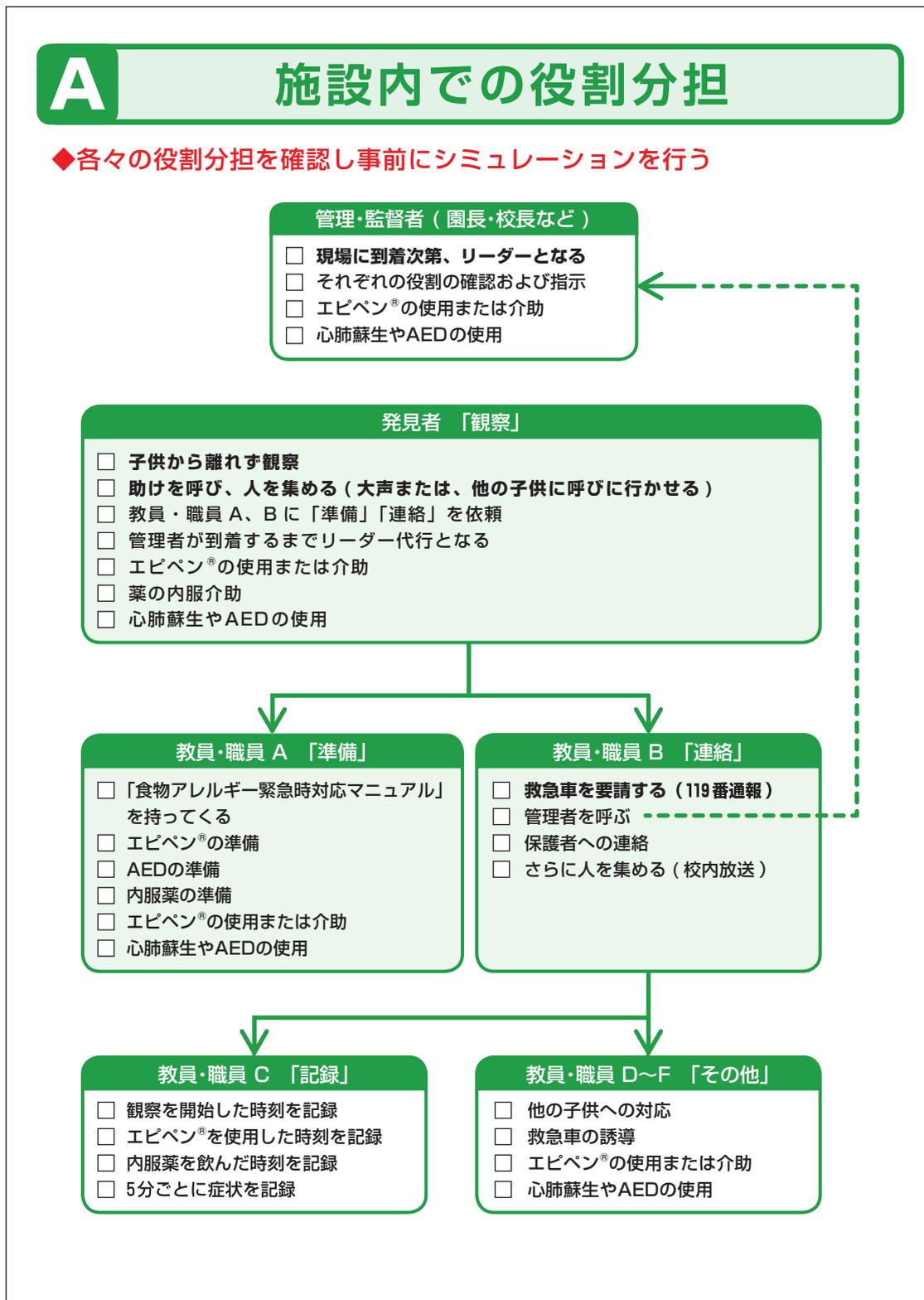
アレルギー症状	
<b>全身の症状</b>	<b>呼吸器の症状</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・意識がない</li> <li>・意識もうろう</li> <li>・ぐったり</li> <li>・尿や便を漏らす</li> <li>・脈が触れにくい</li> <li>・唇や爪が青白い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・声がかすれる</li> <li>・犬が吠えるような咳</li> <li>・のどや胸が締め付けられる</li> <li>・咳</li> <li>・息がしにくい</li> <li>・ゼーゼー、ヒューヒュー</li> </ul>
<b>消化器の症状</b>	<b>皮膚の症状</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・腹痛</li> <li>・吐き気・おう吐</li> <li>・下痢</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・かゆみ</li> <li>・じんま疹</li> <li>・赤くなる</li> </ul>
<b>顔面・目・口・鼻の症状</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・顔面の腫れ</li> <li>・目のかゆみや充血、まぶたの腫れ</li> <li>・くしゃみ、鼻水、鼻づまり</li> <li>・口の中の違和感、唇の腫れ</li> </ul>	

V  
緊急時への備え



# A 施設内での役割分担

- 各職員が緊急時に取りべき役割分担を示しています。
- 事前に役割分担を検討しておきましょう。
- 施設環境、時間帯、曜日などによって職員構成は違うことが考えられるため、どんな状況でも対応できるように、日頃から様々な状況を想定してシミュレーションしておきます。(シミュレーションシナリオについては P68参照)



## B 緊急性の判断と対応

- 「緊急性が高いアレルギー症状」の有無を判断します。  
B-1 の緊急性が高い症状があれば、直ちに対応を開始します。  
緊急性が高い症状がなければ、更に詳しく個々の症状を観察し、症状の程度に基づき対応します。
- エピペン®は一時的に症状を改善する補助治療薬なので、エピペン®を使用して症状が改善された場合でも、必ず救急車を要請します。
- 状態が悪化し、心肺蘇生が必要になることがあります。  
肩を叩いたり、大声で呼びかけても反応がなく、普段どおりの呼吸をしていないときは、まず心肺蘇生を行います。(P38 E 参照)

「緊急性が高い症状」のうち、一つでも当てはまる症状があるかどうかで判断します。  
気管支ぜん息を合併している患児にゼーゼーする呼吸が見られた場合、ぜん息発作の症状なのか、食物アレルギーの症状なのかを区別するのは容易ではありません。両者を区別できない場合は「緊急性が高い症状がある」と判断してください。  
また、症状の現れ方や進行の速さには個人差があります。  
「緊急性が高い症状」の他にエピペン®を使用するタイミングを主治医から指示される場合もあります。

立たせたり、歩かせたり、おんぶしたりすると、急激な血圧低下を招き、ショック状態や場合によっては心肺停止状態を引き起こす可能性があります。

血圧が低下すると、血液循環量が低下し全身状態がますます悪くなります。  
下肢を高くすることで、心臓に戻る血液量を増やします。

### B 緊急性の判断と対応

- ◆アレルギー症状があったら5分以内に判断する！
- ◆迷ったらエピペン®を打つ！ ただちに119番通報をする！

#### B-1 緊急性が高いアレルギー症状

【全身の症状】	【呼吸器の症状】	【消化器の症状】
<input type="checkbox"/> ぐったり	<input type="checkbox"/> のどや胸が締め付けられる	<input type="checkbox"/> 持続する強い（がまんできない）お腹の痛み
<input type="checkbox"/> 意識もうろう	<input type="checkbox"/> 声がかすれる	<input type="checkbox"/> 繰り返し吐き続ける
<input type="checkbox"/> 尿や便を漏らす	<input type="checkbox"/> 犬が吠えるような咳	
<input type="checkbox"/> 脈が触れにくいまたは不規則	<input type="checkbox"/> 息がしにくい	
<input type="checkbox"/> 唇や爪が青白い	<input type="checkbox"/> 持続する強い咳き込み	
	<input type="checkbox"/> ゼーゼーする呼吸 <small>（ぜん息発作と区別できない場合を含む）</small>	

1つでもあてはまる場合

ない場合

#### B-2 緊急性が高いアレルギー症状への対応

- ① ただちにエピペン®を使用する！

→ **C** エピペン®の使い方

- ② 救急車を要請する(119番通報)

→ **D** 救急要請のポイント

- ③ その場で安静にする(下記の体位を参照)

立たせたり、歩かせたりしない！

- ④ その場で救急隊を待つ

- ⑤ 可能なら内服薬を飲ませる

- ◆ エピペン®を使用し10～15分後に症状の改善が見られない場合は、次のエピペン®を使用する(2本以上ある場合)

- ◆ 反応がなく、呼吸がなければ心肺蘇生を行う → **E** 心肺蘇生とAEDの手順

#### 安静を保つ体位

ぐったり、意識もうろうの場合



血圧が低下している可能性があるため仰向けで足を15～30cm高くする

吐き気、おう吐がある場合



おう吐物による窒息を防ぐため、体と顔を横に向ける

呼吸が苦しく仰向けになれない場合



呼吸を楽にするため、上半身を起こし後ろに寄りかからせる

V

緊急時への備え

# C エピペン®の使い方

- 緊急時に正しく使えるように、日頃から練習をしておきます。

図のように、足の付け根と膝の両方の関節を抑えることで、しっかり固定できるだけでなく、抑えている手を目印に正しい部位に注射することができます。

## C エピペン®の使い方

◆それぞれの動作を声に出し、確認しながら行う

### ① ケースから取り出す



ケースのカバーキャップを開け  
エピペン®を取り出す

### ② しっかり握る



オレンジ色のニードルカバーを  
下に向け、利き手で持つ  
**“グー”で握る!**

### ③ 安全キャップを外す



青い安全キャップを外す

### ④ 太ももに注射する



太ももの外側に、エピペン®の先端  
(オレンジ色の部分)を軽くあて、  
“カチッ”と音がするまで強く押し  
あてそのまま5つ数える  
**注射した後すぐに抜かない!**  
**押しつけたまま5つ数える!**

### ⑤ 確認する



使用前 使用後  
エピペン®を太ももから離しオレンジ色のニードルカバーが伸びているか確認する  
**伸びていない場合は「④に戻る」**

### ⑥ マッサージする



打った部位を10秒間、  
マッサージする

### 介助者がいる場合



介助者は、子供の太ももの付け根と膝を  
しっかり抑え、動かないように固定する

### 注射する部位

- ・衣類の上から、打つことができる
- ・太ももの付け根と膝の中央部で、かつ真ん中 (A) よりやや外側に注射する

#### 仰向けの場合



#### 座位の場合



注射した薬剤が速やかに吸収され早く効果が現れるようにするために、注射部位をもみます。

トレーナーではなく本物であることを確認します。  
(緊急時に本物のエピペン®と練習用トレーナーを間違えないようにするために、それぞれ別の場所に保管しておきましょう。)

### ● 注射する部位に何もなかったことを確認する

注射する部位にポケットが重なってしまう場合は、ポケットの中に何もなかったことを確認しましょう。

### ● 注射する前には必ず子供に声をかける

### ● エピペン®は振り下ろさない

振り下ろした瞬間に子供が動いてしまい正しく注射できないおそれがあるので、軽く押し当てた状態から、押し付けましょう。

### ● テンポよく5つ数えて、エピペン®を押し当てている時間は2から3秒間にとどめましょう。長い時間エピペン®を押し当てておくと、その間に子供が動く可能性があり、針で太ももを傷つけてしまう危険性があります。

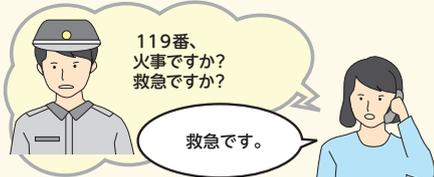
V  
緊急時への備え

## D 救急要請（119番通報）のポイント

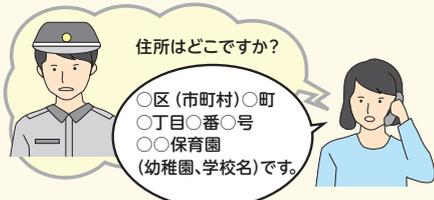
- 事前に、②の欄に施設名、施設の住所、連絡先を記載しておきます。
- Dのとおりの手順に沿って伝えます。
- 救急隊にエピペン®の処方やエピペン®の使用状況について伝えます。

### D 救急要請（119番通報）のポイント

◆あわてず、ゆっくり、正確に情報を伝える

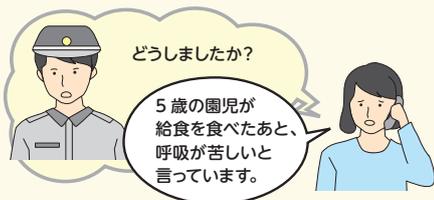


①救急であることを伝える



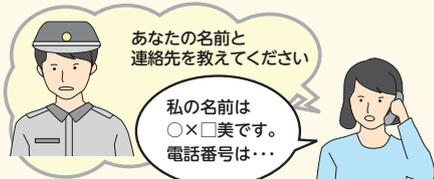
②救急車に来てほしい住所を伝える

住所、施設名をあらかじめ記載しておく



③「いつ、だれが、どうして、現在どのような状態なのか」をわかる範囲で伝える

エピペン®の処方やエピペン®の使用の有無を伝える



④通報している人の氏名と連絡先を伝える

119番通報後も連絡可能な電話番号を伝える

※向かっている救急隊から、その後の状態確認等のため電話がかかってくることもある

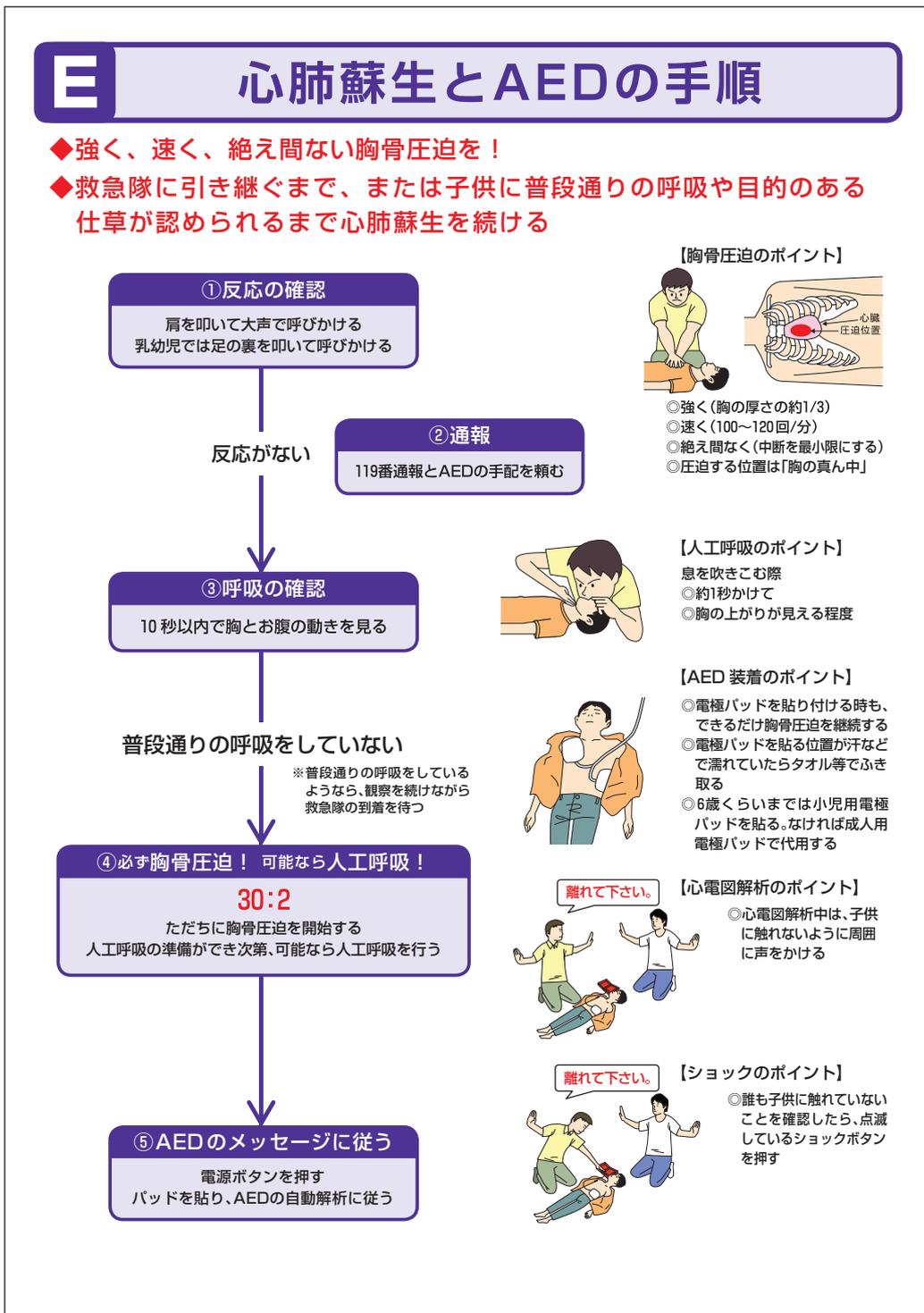
- 通報時に伝えた連絡先の電話は、常につながるようにしておく
- その際、救急隊が到着するまでの応急手当の方法などを必要に応じて聞く

V

緊急時への備え

# E 心肺蘇生とAEDの手順

- 大声で呼びかけたり、肩をたたいたりしても反応がなく、普段どおりの呼吸をしていなければ（呼吸がない、あるいはしゃくり上げるような途切れ途切れの呼吸をしている場合）、直ちに心肺蘇生を開始します。
- アナフィラキシーショックでは、エピペン®の速やかな使用が必要ですが、エピペン®の準備のために心肺蘇生の開始を遅らせてはいけません。呼びかけに反応がなく、普段どおりの呼吸をしていない状態の場合では、エピペン®の到着を待たずに心肺蘇生を開始してください。
- 心肺蘇生は救急隊へ引継ぐまで、または普段どおりの呼吸の回復、手足を動かせるようになるなどの状態となるまで継続してください。



## F 症状チェックシート

- 対応は症状の程度によって3通りに分けられますが、緊急性が高い症状を見逃さないためにも、赤色、黄色、青色の順に症状の有無をチェックしてください。
- 目立つ症状のみに注目するのではなく、全身の状態、呼吸、消化器、粘膜、皮膚の症状を一通り観察しましょう。
- 症状は変化することがあるため、必ず繰り返し症状を観察し評価しましょう。
- エピペン<sup>®</sup>や内服薬を携帯していない場合も、基本的な対応は変わりません。エピペン<sup>®</sup>や内服薬の項を飛ばして、次の項に進んでください。
- 救急隊に引き継ぐ、病院に到着する、症状が改善するまでは観察を続けます。
- 経過の記録は、様式4「緊急時対応経過記録表」を使用します。

 様式4 緊急時対応経過記録表 (P 84)

F

# 症状チェックシート

◆ 症状は急激に変化することがあるため、5分ごとに、注意深く症状を観察する

◆   の症状が1つでもあてはまる場合、エピペン<sup>®</sup>を使用する  
(内服薬を飲んだ後にエピペン<sup>®</sup>を使用しても問題ない)

観察を開始した時刻(  時  分)  内服した時刻(  時  分)  エピペン<sup>®</sup>を使用した時刻(  時  分)

全身の 症状	<input type="checkbox"/> ぐったり <input type="checkbox"/> 意識もうろう <input type="checkbox"/> 尿や便を漏らす <input type="checkbox"/> 脈が触れにくいまたは不規則 <input type="checkbox"/> 唇や爪が青白い		
呼吸器 の症状	<input type="checkbox"/> のどや胸が締め付けられる <input type="checkbox"/> 声がかすれる <input type="checkbox"/> 犬が吠えるような咳 <input type="checkbox"/> 息がしにくい <input type="checkbox"/> 持続する強い咳き込み <input type="checkbox"/> ゼーゼーする呼吸	<input type="checkbox"/> 数回の軽い咳	
消化器 の症状	<input type="checkbox"/> 持続する強い(がまんできない) お腹の痛み <input type="checkbox"/> 繰り返し吐き続ける	<input type="checkbox"/> 中等度のお腹の痛み <input type="checkbox"/> 1～2回のおう吐 <input type="checkbox"/> 1～2回の下痢	<input type="checkbox"/> 軽いお腹の痛み(がまんできる) <input type="checkbox"/> 吐き気
目・口・ 鼻・顔面 の症状	上記の症状が 1つでもあてはまる場合		
皮膚の 症状			
	<input type="checkbox"/> 強いかゆみ <input type="checkbox"/> 全身に広がるじんま疹 <input type="checkbox"/> 全身が真っ赤	<input type="checkbox"/> 軽度のかゆみ <input type="checkbox"/> 数個のじんま疹 <input type="checkbox"/> 部分的な赤み	
	1つでもあてはまる場合	1つでもあてはまる場合	

①ただちにエピペン<sup>®</sup>を使用する  
 ②救急車を要請する(119番通報)  
 ③その場で安静を保つ  
 (立たせたり、歩かせたりしない)  
 ④その場で救急隊を待つ  
 ⑤可能なら内服薬を飲ませる

B 緊急性の判断と対応 B-2参照

ただちに救急車で  
医療機関へ搬送

①内服薬を飲ませ、エピペン<sup>®</sup>  
を準備する  
 ②速やかに医療機関を受診する  
 (救急車の要請も考慮)  
 ③医療機関に到着するまで、  
5分ごとに症状の変化を観  
察し、  の症状が1つでも  
あてはまる場合、エピペン<sup>®</sup>  
を使用する

速やかに  
医療機関を受診

①内服薬を飲ませる  
 ②少なくとも1時間は5分ごと  
に症状の変化を観察し、症状  
の改善がみられない場合は医  
療機関を受診する

安静にし、  
注意深く経過観察

V

緊急時への備え

# 裏表紙 緊急時に備えるために

- このマニュアルの活用にあたっての留意点及び緊急時に備えるための取組を行う上でのポイントを示しています。

## 緊急時に備えるために

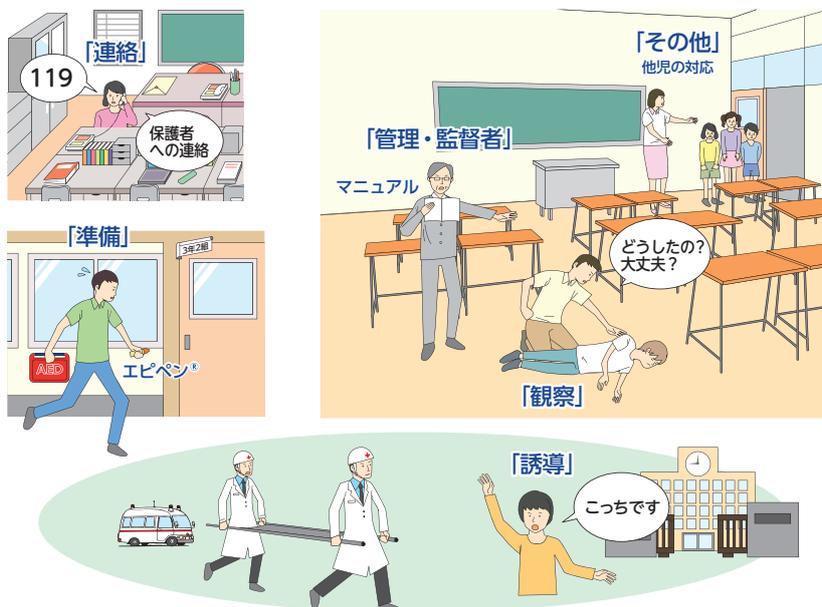
本マニュアルの利用にあたっては、下記の点にご留意ください。

- ☆ 保育所・幼稚園・学校では、食物アレルギー対応委員会を設置してください。
- ☆ 教員・職員の研修計画を策定してください。東京都等が実施する研修を受講し、各種ガイドライン<sup>※</sup>を参考として校内・施設内での研修を実施してください。
- ☆ 緊急対応が必要になる可能性がある人を把握し、生活管理指導表や取組方針を確認するとともに、保護者や主治医からの情報等を職員全員で共有してください。
- ☆ 緊急時に適切に対応できるように、本マニュアルを活用して教員・職員の役割分担や運用方法を決めておいてください。
- ☆ 緊急時にエピペン<sup>®</sup>、内服薬が確実に使用できるように、管理方法を決めてください。
- ☆ 「症状チェックシート」は複数枚用意して、症状を観察する時の記録用紙として使用してください。
- ☆ エピペン<sup>®</sup>や内服薬を処方されていない（持参していない）人への対応が必要な場合も、基本的には「アレルギー症状への対応の手順」に従って判断してください。その場合、「エピペン<sup>®</sup>使用」や「内服薬を飲ませる」の項は飛ばして、次の項に進んで判断してください。

※ 各種ガイドライン

- ・「子供を預かる施設における食物アレルギー日常生活・緊急時対応ガイドブック」（東京都福祉保健局）
- ・「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」（厚生労働省発行）
- ・「学校のアレルギー疾患に対する取り組みガイドライン」（財団法人日本学校保健会発行）

この食物アレルギー緊急時対応マニュアルは、東京都アレルギー情報navi.  
([http://www.fukushihoken.metro.tokyo.lg.jp/allergy/publications/print\\_allergy.html](http://www.fukushihoken.metro.tokyo.lg.jp/allergy/publications/print_allergy.html)) よりダウンロードできます。



【監修】 東京都アレルギー疾患対策検討委員会  
 【編集・協力】 東京都立小児総合医療センター アレルギー科  
 東京消防庁・東京都教育委員会  
 【発行】 東京都健康安全研究センター 企画調整部健康危機管理情報課  
 電話 03(3363)3487

リサイクルマーク  
 この冊子は、環境にやさしく  
 リサイクルできます。

V

緊急時への備え

## What 何を？

# 3 原因食物に触れたときの対応

## Why なぜ？

- 原因食物に含まれるアレルゲンは、皮膚や粘膜からも吸収され、アレルギー反応が起こることがあります。このため、すぐに原因食物を取り除く必要があります。

## How どうする？

- 一般的には重い症状に進むことは少ないとされていますが、少なくとも1時間は5分ごとに注意深く子供の様子を観察しましょう。(緊急時対応マニュアルのFを参照)
- 症状の進行具合によっては、「食物アレルギー緊急時対応マニュアル」に従って緊急性を判断し対応しましょう。

皮膚についた

- 原因食物がついた部分をよく洗い流しましょう。
- 原因食物に触った手で目などをこすらないように注意しましょう。



目に入った

- 流水で目を洗いましょう。

口に入れた

- 原因食物を口から出して、水ですすぎをします。



V

緊急時への備え

